

特集

令和8年3月25日
東京税関

ワインの輸出

- 東京税関管内からの輸出が全国トップ！
- 香港、台湾への輸出が多く、近年では輸出先が多様化の傾向！

【はじめに】

2025年のワインの輸出実績について、税関別で見ると、東京税関管内からの輸出が全国トップであることがわかりました。

日本からの酒類の輸出といえば、日本酒やウイスキーを思い浮かべますが、ワインも規模こそ小さいものの、着実に実績を積み上げております。

東京税関管内には、日本ワイン(国産ぶどうのみを原料として国内製造されたワイン)の出荷数量が国内トップである山梨県が含まれます。山梨県では県による輸出支援の下、ワイナリーがワインの輸出にも力を入れており、主に東京港を利用してワインを輸出しているようです。

今回の特集では、山梨県産をはじめとしたワインの輸出について取り上げます。

【日本ワインの出荷数量上位3都道府県】

順位	出荷数量
1	山梨県
2	長野県
3	北海道

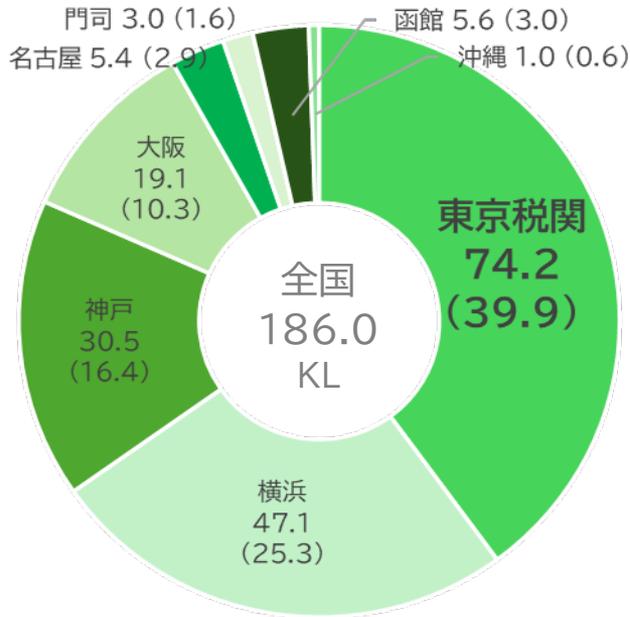
※ 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況(令和6年アンケート)」をもとに作成。

※ 本特集で取り上げる「ワイン」は、輸出統計品目番号「第2204.21号」に分類されるものです。

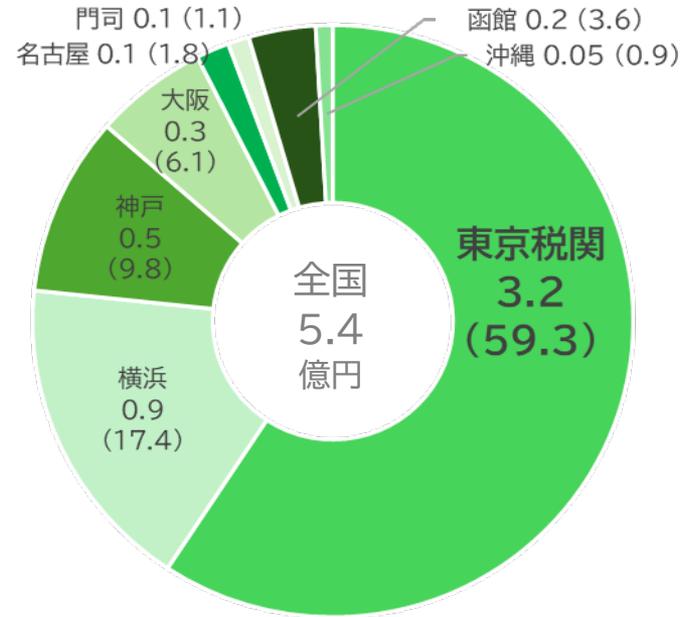
【2025年のワインの税関別輸出実績】

2025年に全国から輸出したワインの数量は186.0KLで、そのうち東京税関は39.9%の74.2KLでした。
 同様に金額は5.4億円で、そのうち東京税関は59.3%の3.2億円でした。
 数量の割合は約4割、金額は約6割であり、東京税関からの輸出の割合が高いことが伺えます。

【数量】



【金額】

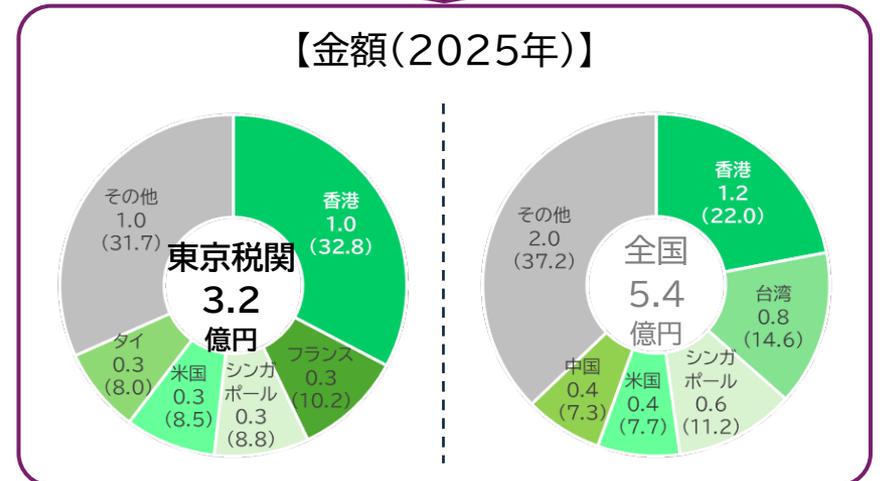
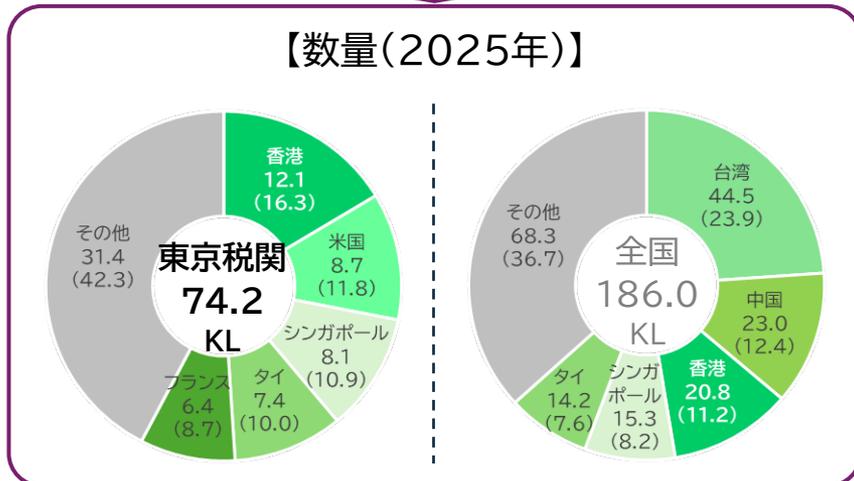
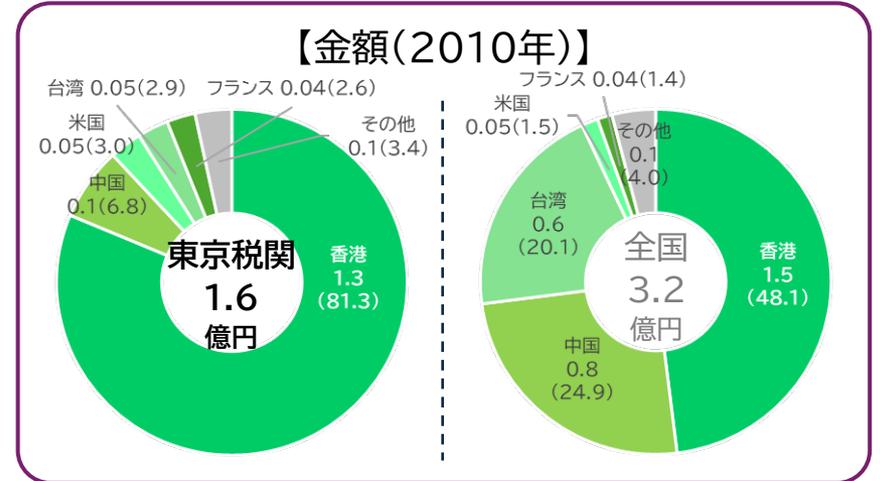
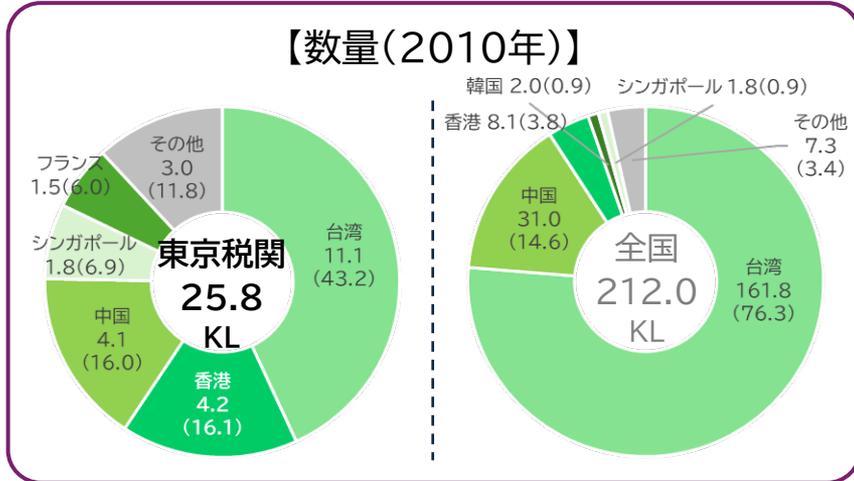


※ カッコ内は全国に占める割合(%)。
 長崎税関は輸出実績なし。

【ワインの国・地域別輸出動向】

2010年においては東京税関分、全国分ともに、数量は台湾、金額は香港が大きな割合を占めていましたが、2025年においてはその割合が低下し、シンガポールや米国などその他の国・地域への輸出割合が大きくなっており、このことから、2010年に比べて2025年は輸出先の国・地域が多様化していることが伺えます。

※ カッコ内は全体に占める割合(%)



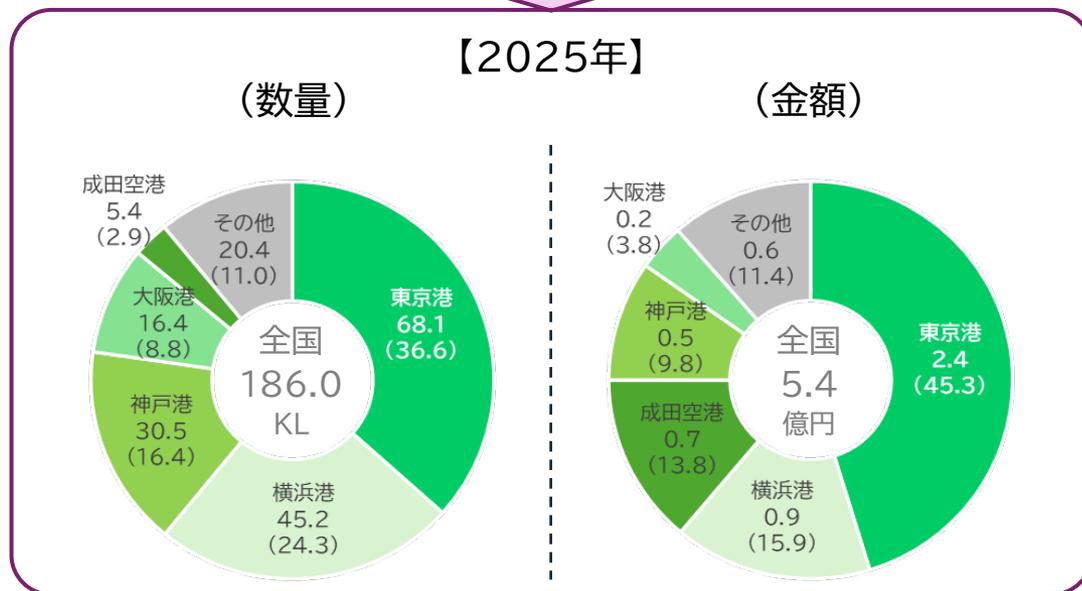
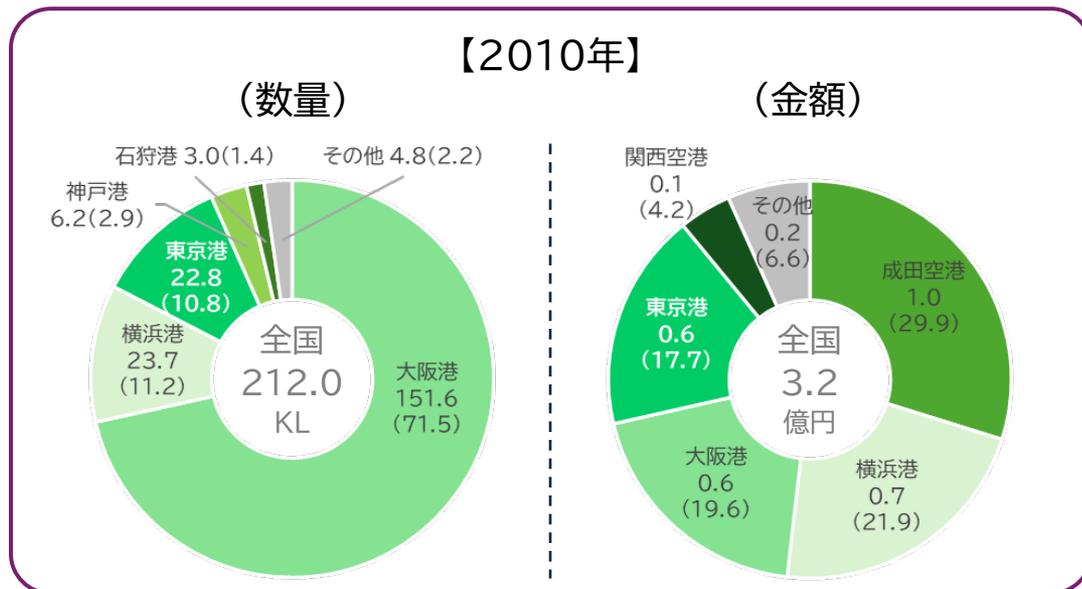
【ワインの港別輸出動向】

2010年の輸出数量では大阪港、金額では成田空港がトップでしたが、2025年では共に東京港がトップとなっております。

なお、ワインの海外への輸送手段について、航空輸送、海上輸送のいずれも可能ですが、航空輸送では運賃が高くなりがちなこと、基本的には航空輸送よりも運賃が安い海上輸送を利用することが多いようです。

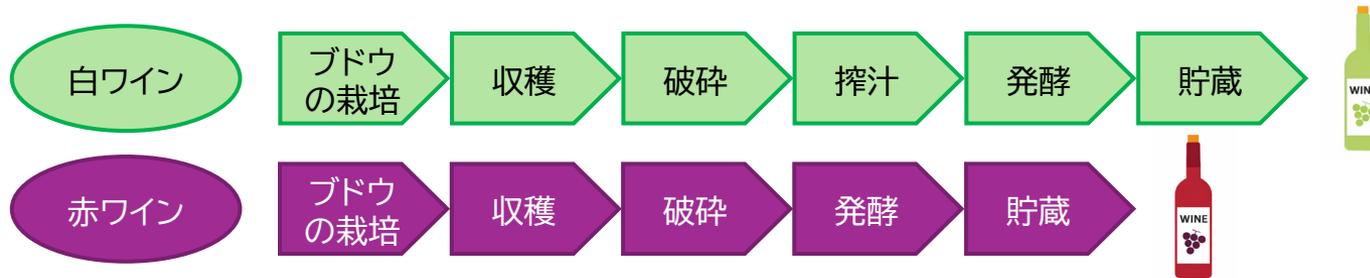


※ カッコ内は全体に占める割合(%)。



【ワインができるまで】

ワインは白ワインと赤ワインで造り方※1が異なります。



※1【参考】独立行政法人酒類総合研究所「お酒のはなし」 <https://www.nrib.go.jp/sake/story/pdf/SakeNo03.pdf>

違いは白ワインに「搾汁」という工程がある点です。白ワインはブドウの果汁のみを発酵させて造るのに対し、赤ワインはブドウの果汁に加えて種や皮を入れて発酵させて造ります。そのため、白ワインにはブドウの果汁のみを絞り出す「搾汁」という工程があります。

KOJ※2によると、アルコール生成に必要な発酵については概ね2週間ほど、その後の貯蔵(熟成)についてはブドウの品種や管理体制により期間は様々(後述する「甲州ワイン」の場合は1年から3年ほど)とのことです。なお、日本の場合、高温多湿の気候であるため、長期貯蔵(熟成)が必要なワインの生産は難しいのですが、管理次第では可能であり、管理の仕方によっては20年貯蔵(熟成)させておいしく飲めるとのことです。

※2 KOJ(Koshu of Japan)は、日本のワイン生産地である山梨県内のワイン生産者15社と甲州市商工会、甲府商工会議所、山梨県ワイン酒造協同組合によって2009年7月8日に設立された団体。

【ワインに使われるブドウの品種】

主要品種は、白が日本固有種の「甲州」、赤が日本でラブラスカ種とヴィニフェラ種から交配され、やはり固有種といえる「マスカット・ベリーA」です。1970年代後半からヴィニフェラ種の導入が本格的に始まり、メルロ、シャルドネは権威ある国際コンクールで毎年のように受賞しています。ほかにも赤品種ではカベルネも栽培され、シラー、ピノ・ノワールはまだ栽培面積は取るに足りないものの、チャレンジする生産者が増えてきました。白品種ではケルナー、ソーヴィニヨン・ブランが注目されています。

【出典】日本ワイナリー協会「日本ワインの基礎知識」 <https://www.winery.or.jp/basic/knowledge/>

【白ブドウ品種「甲州」と「甲州ワイン」】

先述の通りワインの材料となるブドウの種類は数多くありますが、その中でも日本固有のブドウは「甲州」という白ブドウ品種になります。「甲州」の歴史は長く、一説では1,000年以上前に生まれたともいわれ、明治初期に日本で産業としてワイン醸造が始まった際にも使用されたようです。

そして、この「甲州」を材料として造られるワインが「甲州ワイン」であり、主に山梨県で生産されております。

その味は繊細で、シーフードや日本食によく合うようです。

なお、「甲州」は、2010年にワインの国際的審査機関OIV(国際ブドウ・ワイン機構)から、『「甲州」種を『国際ぶどう品種及び同義語リスト』及び『世界のぶどう品種についての記述』に掲載することに同意した。』という通知を受け、日本固有のワイン醸造用のブドウ品種として初めて当該リストに掲載されました。これにより、ラベルに品種名「Koshu」を記載できるようになり、EUに輸出することができるようになりました(EUではOIVに掲載されている品種でなければ品種名を表示できません)。

【参考】独立行政法人酒類総合研究所「ブドウ品種「甲州」、国際ブドウ・ワイン機構に品種登録」 <https://www.nrib.go.jp/topics/pdf/nribtopi220405.pdf>

【お酒のGI制度】

お酒のGI(Geographical Indication:地理的表示)制度は、地域の共有財産である「産地名」の適切な使用を促進する制度となっております。つまり、GI制度によりワインの産地を証明することになるので、ワインの輸出及び輸出先の国・地域での販売において、非常に大切になります。

お酒のGI制度については、WTO(World Trade Organization:世界貿易機関)の発足に際し、ぶどう酒と蒸留酒の地理的表示の保護が加盟国の義務とされました。そのため、日本では1994年に国税庁が制度を制定し、2015年に見直しを行い、すべての酒類が制度の対象となりました。

なお、日本では産地からの申立てに基づき、国税庁長官の指定を受けることで産地名を独占的に名乗ることができるようになり、産地にとっては、地域ブランド確立による「他の製品との差別化」、消費者にとっては、一定の品質が確保されていることによる「信頼性の向上」という効果があります。ワインの産地に関しては、2013年に日本で初めて、GI Yamanashi(地理的表示「山梨」)が国税庁長官から指定を受けました。国内ではほかに2018年に北海道、2021年に山形県、大阪府、長野県がワインの地理的表示の指定を受けました。

【参考】国税庁「酒類の地理的表示」 <https://www.nta.go.jp/taxes/sake/hyoji/chiriteki.htm>

【ラベリング】

ワインの販売には、ラベリング(ラベル表示)が必要となります。ラベルには「品目」、「原材料名」、「製造者」、「内容量」、「アルコール分」、「原産国名」等の必須項目を表示する必要があり、ラベルがないとワインを販売することができません。ラベリング及びラベルの取得方法は、各国の法律等で定められているため、ワインを輸出する際には、輸出先の国・地域においてラベリングを認められる必要があります。

【参考】 国税庁「果実酒等の製法品質表示基準について(ワインのラベル表示のルール)」 <https://www.nta.go.jp/publication/pamph/sake/winelabel.pdf>

【おわりに】

KOJによると、日本ワインの海外での認知度はまだ十分には浸透していないとのことです。そのため、海外でのプロモーション等を通して、日本ワインの認知度を上げ、ブランド力を強化して販路を広げていきたいとのことです。そうした中、今後、ワインの輸出先として力を入れていく国として、シンガポールをはじめとしたアジア諸国や米国をあげておりました。特に米国ではオーガニックワイン(化学農薬や除草剤等を原則として使用せず、有機栽培されたブドウを材料として造られるワイン)に対する期待が大きいことから、輸出に力を入れていきたいということでした。

【出典】 財務省貿易統計。

本資料の貿易統計の数値は、2024年以前は確定値、2025年は確々報値。
成田空港の数値は、成田空港と東京航空貨物出張所を合計したものです。

【取材協力】 KOJ(Koshu of Japan)、山梨県

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。
東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

財務省貿易統計

検索

東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 貨物合同庁舎
<https://www.customs.go.jp/tokyo/>

【資料編】

【税関別輸出実績(2025年)】

税関	数量 (リットル)	全国比 (%)	金額 (千円)	全国比 (%)
東京税関	74,240	39.9	317,544	59.3
横浜税関	47,123	25.3	93,075	17.4
神戸税関	30,454	16.4	52,417	9.8
大阪税関	19,082	10.3	32,699	6.1
名古屋税関	5,442	2.9	9,588	1.8
門司税関	3,037	1.6	6,149	1.1
長崎税関	-	-	-	-
函館税関	5,597	3.0	19,287	3.6
沖縄税関	1,026	0.6	4,904	0.9
合計	186,001	100.0	535,663	100.0



【国・地域別輸出実績(2010年)】

東京税関管内			全国		
国 (地域)	数量 (リットル)	割合 (%)	国 (地域)	数量 (リットル)	割合 (%)
台湾	11,134	43.2	台湾	161,766	76.3
香港	4,157	16.1	中国	31,040	14.6
中国	4,138	16.0	香港	8,103	3.8
シンガポール	1,789	6.9	韓国	2,011	0.9
フランス	1,538	6.0	シンガポール	1,825	0.9
その他	3,046	11.8	その他	7,289	3.4
合計	25,802	100.0	合計	212,034	100.0

東京税関管内			全国		
国 (地域)	金額 (千円)	割合 (%)	国 (地域)	金額 (千円)	割合 (%)
香港	133,652	81.3	香港	153,242	48.1
中国	11,178	6.8	中国	79,376	24.9
米国	4,894	3.0	台湾	64,207	20.1
台湾	4,715	2.9	米国	4,894	1.5
フランス	4,330	2.6	フランス	4,330	1.4
その他	5,557	3.4	その他	12,826	4.0
合計	164,326	100.0	合計	318,875	100.0

【港別輸出実績(2010年)】

港	数量 (リットル)	割合 (%)	港	金額 (千円)	割合 (%)
大阪港	151,593	71.5	成田空港	95,249	29.9
横浜港	23,721	11.2	横浜港	69,945	21.9
東京港	22,795	10.8	大阪港	62,560	19.6
神戸港	6,178	2.9	東京港	56,493	17.7
石狩港	2,993	1.4	関西空港	13,498	4.2
その他	4,754	2.2	その他	21,130	6.6
合計	212,034	100.0	合計	318,875	100.0

【国・地域別輸出実績(2025年)】

東京税関管内			全国		
国 (地域)	数量 (リットル)	割合 (%)	国 (地域)	数量 (リットル)	割合 (%)
香港	12,129	16.3	台湾	44,453	23.9
米国	8,738	11.8	中国	22,976	12.4
シンガポール	8,078	10.9	香港	20,773	11.2
タイ	7,419	10.0	シンガポール	15,307	8.2
フランス	6,441	8.7	タイ	14,187	7.6
その他	31,435	42.3	その他	68,305	36.7
合計	74,240	100.0	合計	186,001	100.0

東京税関管内			全国		
国 (地域)	金額 (千円)	割合 (%)	国 (地域)	金額 (千円)	割合 (%)
香港	104,062	32.8	香港	117,674	22.0
フランス	32,314	10.2	台湾	78,395	14.6
シンガポール	28,037	8.8	シンガポール	60,062	11.2
米国	26,869	8.5	米国	41,076	7.7
タイ	25,472	8.0	中国	38,932	7.3
その他	100,790	31.7	その他	199,524	37.2
合計	317,544	100.0	合計	535,663	100.0

【港別輸出実績(2025年)】

港	数量 (リットル)	割合 (%)	港	金額 (千円)	割合 (%)
東京港	68,123	36.6	東京港	242,480	45.3
横浜港	45,185	24.3	横浜港	85,036	15.9
神戸港	30,454	16.4	成田空港	74,168	13.8
大阪港	16,379	8.8	神戸港	52,417	9.8
成田空港	5,435	2.9	大阪港	20,372	3.8
その他	20,425	11.0	その他	61,190	11.4
合計	186,001	100.0	合計	535,663	100.0